



EIKEN_YOKOHAMA_OFFICIAL

衛生研究所のインスタグラム
できました。フォローお願いします！

2025年8月発行



検査情報月報8月号 ▶ 概要版 ◀

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。

横浜市における2024/2025シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

主な結果 ▶ 2024/2025シーズンの流行は、AH1pdm09ウイルスが主流であり、病原体定点ウイルス調査におけるインフルエンザウイルス分離・検出数の80.0%を占めました。また、流行の後半にAH3ウイルス及びB型ウイルス(ビクトリア系統)が分離・検出される傾向がありました。▶ 施設別発生状況調査(集団かぜ調査)では、市内18区における学級閉鎖等のインフルエンザ集団発生事例を調査し、16集団からAH1pdm09ウイルスが、2集団からAH3ウイルスが分離・検出されました。▶ 分離したウイルスの抗原性状は、AH1pdm09ウイルス及びB型ウイルス(ビクトリア系統)はすべての株でワクチン株に対して4倍以内の反応性を示しました。一方、AH3ウイルスでは19株中4株がワクチン株に対して8倍の反応性の低下を示しました。

「水道水質検査の外部精度管理調査」への参加結果(令和5年度・令和6年度)

▶ 横浜市衛生研究所では厚生労働省(令和5年度)・環境省(令和6年度)が実施する「水道水質検査精度管理のための統一試料調査」に参加して、水質検査に係る技術水準の向上、検査体制の改善を通じて、検査の信頼性の確保に努めています。令和5年度及び令和6年度の参加結果を報告します。

主な結果 ▶ 令和5年度の調査対象検査項目は有機物が「ホルムアルデヒド」、無機物が「硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素」でした。▶ すべての項目がZスコア、中央値からの誤差率ともに良好な結果でした。階層化評価では第1群に評価されました。
▶ 令和6年度の調査対象検査項目は有機物が「クロロ酢酸」、「ジクロロ酢酸」、「トリクロロ酢酸」、「有機物(全有機炭素(TOC)の量)」でした。▶ すべての項目がZスコア、中央値からの誤差率ともに良好な結果でした。階層化評価では「クロロ酢酸」、「ジクロロ酢酸」、「トリクロロ酢酸」が第1群に評価されました。「有機物(全有機炭素(TOC)の量)」は第2群と評価されましたが、改善報告書により是正処置が適正であると認められています。

農産物の残留農薬検査結果(令和7年5月～6月)

▶ 食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

主な結果 ▶ 市内産農産物の10種類、26検体の検査を行った結果、きゅうり、こまつな及びトマト各2検体、カリフラワー、キャベツ及びほうれんそう各1検体から延べ14項目の農薬が検出されました。このうち、キャベツ1検体から、アセフェート1.2ppm及びメタミドホス0.21ppmの2項目が検出され、残留農薬の規格基準値(アセフェート:0.2ppm、メタミドホス:0.1ppm)を超過していました。その他のものについては、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。